



# ち★ネット!

「顔の見える地域連携」を目指した多職種での情報交換と学びの会  
それが、地域医療ネットワークの会です!

## 平成 29 年 9 月 9 日 第 31 回 地域医療ネットワークの会

どこで、どのように いきたいのか。

私たちは、患者さん・利用者さんの心づもりを聞いていますか?

明日から、私たちができることを考えましょう



地域医療ネットワークの会では、第 27 回、28 回において「高齢社会 何がおきているの?」「意思決定って誰がするの?」をテーマとし、治療や療養場所、生き(逝き)方に意思決定を求められるということ、アドバンス・ケア・プランニングの考え方等が話題となりました。そこで今回は「どこで、どのようにいきたいのか。私たちは、患者さん・利用者さんの心づもりを聞いていますか?」をテーマに 32 施設・68 名の参加者で、それぞれの立場から療養場所や生き(逝き)方についての意思決定支援についてグループワーク、全体発表を行いました。

開会のあいさつ：地域医療ネットワークの会 世話人 井上 健男（聖マリアンナ医科大学病院）

オリエンテーション・動画視聴：地域医療ネットワークの会 世話人 丹下 みつる（聖マリアンナ医科大学病院）

グループワーク：7~8 名の 10 グループによるフリーディスカッション

全体会：各グループより実際に演じての発表と全体意見交換会

座長：地域医療ネットワークの会 世話人 西川 真人（西川内科・胃腸科）

「顔の見える」交流会（懇親会） ち★ネットリボン賞発表

今回は話題提供とし、救急搬送された高齢肺炎患者の事例をビデオ上映しました。入院後人工呼吸器管理を経て廃用が進んだ高齢者の今後の療養について相談している場面を見て、10 グループに分かれてフリーディスカッションを行いました。過去にも何度か意思決定支援についてディスカッションしてきましたが、今回は更にそれぞれの専門的立場での深い話が出来たのではないかと感じました。

グループワーク後は初の試みで、各グループのディスカッションのポイントとなった場面を設定し、グループメンバーが実際にそれぞれの立場を演じて発表する形式としました。全体会での発表では名役者が揃っており、中でも患者役の名演技に大いに盛り上がった発表となりました。ち★ネットリボン賞を受賞したグループは 2 場面を設定し、退院前カンファレンスと自宅で患者本人がアウェイ（病院）とホームグランド（自宅）では発言が変化する等細かい場面の発表がなされました。また、エンディングノートの話題に触れるグループもあり、各グループ様々な内容での発表となりました。グループワークでのディスカッションと演技までを考えるには、時間も短かったという意見もあったかと思いますが、沢山の発表を楽しんで頂けたのではないのでしょうか？今回の地域医療ネットワークの会では、キーワードとして心づもり、リビングウィル、エンディングノートが印象に残ります。また、話題にもなったアドバンス・ケア・プランニングは様々な専門職が関わり、その人が望む生活を地域でサポートしていくことが重要であると感じました。心づもりは変わっていいもの、何度か話し合って確認していく場を作っていくことが重要になると感じ、深い学びになったと考えます。





グループ名: 全員野球!!



グループ名: 元気うちにエンディングを考える



グループ名: イフ あの時そうだったら



グループ名: 女性は強い



グループ名: 心づもりしたつもり



グループ名: 9・9・9(スリーナイン)



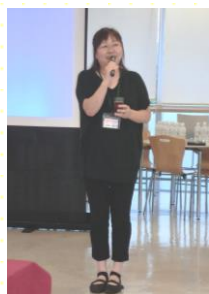
グループ名: ちがうだろう



グループ名: 転ばぬ先の杖



グループ名: みんなで聞いてみよう



ち★ネットリボン賞 1 位



ち★ネットリボン賞 2 位



ち★ネットリボン賞 3 位